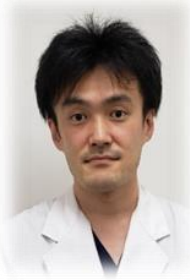
あの人に聞きたい：久米 雄一郎 先生

役職：赤羽岩渕病院　副院長

略歴
2002年　東京大学農学部　卒業
2003年　東京大学大学院農学生命科学研究科
　　修士課程　中退
2008年　香川大学医学部　卒業
2008年　がん・感染症センター都立駒込病院
2014年　東京医科歯科大学医学部附属病院
2017年　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
　　博士課程　卒業
2018年　東京医科歯科大学医学部附属病院　特任助教
2018年　がん・感染症センター都立駒込病院
2019年　医療法人社団　福寿会　赤羽岩渕病院

専門・資格
医師・医学博士・難病指定医
外科専門医・消化器内視鏡専門医
消化器病専門医
食道科認定医・がん治療認定医
がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
修了
がんのリハビリテーション研修会　修了
嚥下機能評価研修会　修了



久米 雄一郎 先生

―――東京大学大学院農学生命科学研究科から医師へ転身するという経緯をお持ちですが、農学生命科学から医学を志されたきっかけなどはありますか。

以前より、がん患者さんの役に立ちたいという気持ちから、大学院ではがん細胞の研究をしておりました。ただ、自分の仕事が実際に患者さんの役に立つまでの時間が長くかかることもあり、もどかしい思いを抱えておりました。そのため、患者さんとコミュニケーションをとりながら、より直接的に患者さんの役に立てる医師を目指した経緯があります。

―――食道外科を専門にされていますが、外科医になろうと思ったのはなぜですか。

がんを含む消化器疾患に対する治療の中で、もっとも重要なものの一つが手術です。手術は、外科以外では学ぶことができないため、外科医を目指しました。

食道外科では、手術・抗がん剤治療・放射線治療など、がんに対する直接的な治療の知識に加えて、内視鏡を用いたがんの早期診断や嚥下機能の評価法、嚥下のリハビリ法、患者さんの栄養状態の把握およびその向上のための処置、痛みや苦しさを和らげるための治療など、幅広く学びました。これらを通じて、赤羽岩渕病院に来院された患者様のお役に立てればと考えています。

―――入院、外来、在宅も行っていらっしゃいますが、すべてに関わろうと思ったのはなぜですか。また、患者さんと接するうえで心掛けていることはなんですか。

これは私に限った話ではなく、赤羽岩渕病院では、入院、外来、在宅のすべてに関わっている医師が多いです。当院在宅部が訪問診療を行っている施設から入院された患者さんに「往診に来てくれている先生だ」と、安心したご様子で声をかけて頂くことがあります。病院と在宅診療部が連携して診療にあたっている、赤羽岩渕病院ならではの光景です。患者様およびご家族の皆様に、安心して医療を受けて頂くよう、在宅から入院まで切れ目のないケアを提供することを主眼としています。

診療にあたっては、病気だけを見るのではなく、患者さんやそのご家族にとって幸せかどうかを常に考えることを心がけています。患者さんができる限り自分らしく、なるべく住み慣れた環境で、安心して療養を続けることが目標です。幸せの定義は人それぞれ違いがあります。そのため、患者さん・ご家族と話し合いを重ね、納得していただいたうえで治療に当たるよう心がけています。また、ご高齢の方は身の回りのことで介助が必要になることが多くあります。看護師・理学療法士と連携し、生活のために必要な能力を維持・増強することも重要です。また、ソーシャルワーカーと連携し、介護しているご家族の負担が、過剰にならないように介護サービスの調整も行っています。

―――趣味や普段の生活で熱中されていることはありますか。

学生の時はスノーボードに熱中していました。現在は、家事や子育てと仕事の両立を心がけています。休日に子供とゲームなどで遊ぶことが楽しみの一つです。

―――最後に読者に一言お願いします。

患者さんやご家族に寄り添い、患者さんがなるべく自分らしく療養できるような体制を構築したいと考えています。そのため、在宅から入院、そして在宅復帰と、安心できる切れ目のないケアが提供可能な病院を目指しています。

久米先生、お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。

住所：〒115-0045　北区赤羽2-64-13
電話：03-3901-2221

受付時間：平日：9:00～12:00　14:00～17:00　17:30～19:00
　　土曜：9:00～12:00　14:00～17:00
休　　診：日曜・祝日　＊急患随時受付可（救急指定病院）
水曜日の午前中に外来にて上部消化管（食道・胃・十二指腸）内視鏡検査も行っています。